



岩倉の山車は、岩倉の文化

岩倉市山車保存会

大上市場、中本町、下本町にある岩倉市指定文化財の3台の山車。江戸時代につくられた歴史あるもので、明治初年まで旧暦の6月16日に3台の山車が神明大一社にそろう、祇園祭を彩ってきました。この山車を大切に守ってきたのが各町内の保存会の人たち。山車が再び脚光を浴び始めた1970年代、各町内で修復が始まり、岩倉市制20周年(1991年)には約半世紀ぶりに3台の山車曳きが行われました。戦争や時代の流れの中で途絶えた伝統をなんとかよみがえらせたいという気持ちが、実現に導いたのです。

それから20年、今や、岩倉の歴史と伝統を市内外に発信するシンボルとなった山車。それに対応し、3町の保存会も岩倉市山車保存会として力を合わせて取り組むこととなりました。「何より心がけるのは、山車巡行を安全に成し遂げることです」と話すのは、保存会会長の中村熙三さん。山車の維持、祭りの運営・関係機

関との調整・・・華やかな祭りの影には保存会の大きな働きがあります。

「一度途切れた祭りを復活させた先人の思いを汲み取って受け継いでいくのが私たちの役目。400年間の岩倉の文化と伝統をもっと知ってほしい。」

より多くの市民に、子どもたちに、この思いが受け継がれることを願って、保存会の人たちは祭りを守り続けます。

歴史を受け継ぐ

人と人

岩倉の山車



大上市場山車

間口2.3m／高さ8m／からくり人形4体
唐子が異なる高さの杭を軽々と渡る「乱杭渡り」。大唐子、小唐子で演じる逆立ちや太鼓叩きが見どころの「肩上倒立」。



下本町山車

間口2.6m／高さ8m余／からくり人形5体
鉢の花を切り取ってみせる菅丞相(菅原道真)。また肩車されて登場した唐子が倒立して鉦をたたく。

中本町山車

間口2.3m／高さ8m余／からくり人形4体
弓を携えた那須与一が馬に乗り、屋形船の日の丸扇を矢で射ると、船は社殿に変化するというからくり。

春を呼ぶ「のんぼり洗い」

岩倉街道沿いに建つ2軒の「のんぼり屋」、中島屋職店と旗屋中島屋代助商店。染物屋として400年の歴史を持つ老舗です。戦国の時代には、先陣に張る「陣幕」や武将の背後に立てる「旗指」を、江戸時代には儀式や行事に使う「幟」、さらに武家の風習が町人にも浸透すると、端午の節句を祝って、鯉の滝登りを染めた幟である鯉のぼりをつくるようになりました。

岩倉の「のんぼり屋」は、今も伝統を受け継いで昔ながらの手法で鯉のぼりやのれん、芝居の幕など、新しい感覚を取り入れながら製品をつくっています。

まだ五条川の水が冷たい早春に行われる「のんぼり洗い」。伝統的な技法で染め上げられた鯉のぼりの糊を、川の水で落とす作業は、今では岩倉の春の風物詩として、訪れる人を楽しませています。



People respecting tradition

Iwakura City has three festival floats that are designated as municipal cultural assets. Since they were built in the Edo period, they have been passed down among the members of the float preservation group. Although the tradition of festivals was temporarily discontinued during the war and other events, we now have *Sakura-matsuri* (cherry blossom festival) and *Natsu-matsuri* (summer festival) where people parade through the streets pulling the three floats. These events are enjoyed by crowds of people. Iwakura has two *nombori-ya*, or dye shops specializing in carp-shaped streamers and theater curtains. Both of them date back 400 years. *Nombori-arai*—the process of removing starch from carp-shaped streamers dyed using traditional methods in the Gojo River—heralds the arrival of spring in Iwakura.

Pessoas que transmitem a história

Na cidade de Iwakura existem 3 *dashis* considerados pela cidade como patrimônios culturais. Foram construídos no período Edo, e transmitidos até hoje pela Associação de Preservação de Dashis. Durante a 2ª Guerra Mundial, os festivais não foram realizados por uns tempos, mas, hoje, os 3 *dashis* são conduzidos no Festival do Sakura e no Festival de Verão, atendendo à expectativa de muita gente. Em Iwakura há 2 lojas de *nombori-ya* — estabelecimentos de tingimento que produzem *koinobori* (adorno que tem a carpa como tema) e cortina de teatro. Ambas as lojas têm 400 anos de história. A tarefa de remover a cola do *koinobori* (tingido sob técnica tradicional) no rio Gojo faz anunciar a vinda da primavera em Iwakura.

子どもたちが受け継ぐ「木遣り歌」

山車の曳き回しの前に、祭礼として奉納される「木遣り歌」。2011年の山車夏まつり、神明大一社本殿前と岩倉街道で、初めて、子どもたちによる木遣り歌が奉納されました。これは、もっと子どもたちに祭りに親しんでもらいたいという中本町山車保存会の試み。地元子ども会を通じ、園児から高校生まで15人が集まり練習を重ねました。楽譜もなく、耳で覚えるしかない木遣り歌。馴染みのない独特の節回しに苦労しながら稽古を続け、本番でしっかりと歌いあげました。

